

法学部

授業科目名	平和学		
担当教員名	川久保 文紀 (かわくぼ ぶんき)		
区分	専門教育科目	単位数	4単位
学期区分	通年	担当形態	単独

<教職のみ>

科目	
教員の免許取得のための	
施行規則に定める科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びディプロマポリシーとの関係	<p>【授業の到達目標（学習教育目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和学や国際関係を学ぶ上で重要な基本的用語と考え方を身につける。 ニュースや日常生活のなかで「平和ならざる状態」を認識する。 「戦争のない世界＝平和なのか?」という問いを具体的事例に触れながら追究する。 共生や異文化理解などを念頭におき、地球社会の現状と課題を考察できる能力を養成する。 <p>【身につく就業力】</p> <p>異文化の理解、社会的責任、倫理観、課題解決力</p> <p>【ディプロマポリシーとの関係】</p> <p>平和学の基本的かつ体系的な知識を身につけることで、人権感覚の育成と共生意識の習得に寄与します。</p>		
授業の概要	<p>20世紀という時代は「戦争と革命の世紀」(ハンナ・アレント)でしたが、平和学は、社会科学の他の隣接諸領域との学際的協力を試みながら、「戦争の諸原因と平和の諸条件」(高柳先男)を考察していく学問的特質をもっています。冷戦崩壊後、グローバル化が急速に進展する現代の地球社会においては、難民危機、地球温暖化、貧困と経済格差、内戦や地域紛争の勃発などの「地球的問題群」が山積しており、こうした今日的課題にも対応できるような新しい平和学の在り方も模索されています。</p> <p>平和学を学ぶためには、現実の国際社会や世界構造の「隠された」現状を批判的に考察していくという基本的姿勢が何よりも必要です。本講義では、受講生みずからが、20世紀の時代経験を踏まえ、暴力と平和をめぐる諸問題について考える「きっかけ」となるような講義展開を心がけたいと思います。また、視聴覚教材の利用、レスポンスシートの提出、ゲストスピーカーによる特別講義なども取り入れることによって、受講生が主体的に講義に参加できるように努めていきたいと思っています。なお、現実の地球社会で生起する出来事は日々大きく変わるので、受講生にできる限りリアルな国際関係の状況を伝えるために、授業計画の順序通りには進まないことを付記しておく。</p>		
学生が達成すべき行動目標			
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の新聞やニュースに積極的に触れるようにすること。 テキストや参考書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 		
授業計画	授業計画・学習内容		学習課題（予習・復習等）
	前期		
	1	イントロダクション：20世紀の時代経験	
	2	20世紀という時代①十五年戦争	
	3	20世紀という時代②第一次・第二次大戦	
	4	ニュルンベルグ裁判と東京裁判—戦争犯罪と「戦後和解」	
	5	20世紀という時代③植民地独立と冷戦	
	6	日系アメリカ人と強制収容—人種主義と戦争	
	7	平和学とはどのような学問か①歴史と展開	
	8	平和学とはどのような学問か②「構造的暴力」とは何か	
	9	ヒロシマ・ナガサキから考える平和	
	10	オキナワと米軍基地から考える平和	
	11	「核の密約」とは何か	
	12	ノーベル平和賞から考える戦争と平和	
	13	ゲストスピーカーによる特別講義	
	14	9・11テロと「新しい戦争」	
15	前期の総括		

		授業計画・学習内容	学習課題（予習・復習等）		
		後期			
		1	イントロダクション：新しい平和学		
		2	人間の安全保障とは何か		
		3	国際連合と平和—国際機構を中心に		
		4	世界の貧困と開発		
		5	難民とは何か		
		6	資源と水をめぐる戦争		
		7	国際正義と平和構築		
		8	ジェンダーと平和		
		9	地球温暖化と平和		
		10	世界の国境問題①—ボーダースタディーズの考え方		
		11	世界の国境問題②—ティコポリティクス		
		12	世界の国境問題③—事例研究		
		13	ゲストスピーカーによる特別講義		
		14	グローバルガバナンスと平和		
		15	後期の総括—地球市民社会とは		
特記項目（履修に必要な予備知識や技術）					
テキスト・参考書・参考資料等		<p>前期は基本的にレジュメを配布する。 後期はレジュメとともに以下の【テキスト】も用いる。 滝田賢治ほか編『国際関係学—地球社会を理解するために（第2版）』有信堂高文社、2016年。 アレキサンダー・ディーナー/ジョシュア・ヘーガン（川久保文紀訳）『境界から世界を見る—ボーダースタディーズ入門』岩波書店、2015年。</p>			
評価					
学生に対する評価		(1) レスポンスシートの提出を含む授業参加状況：50% (2) 前期末試験：25% (3) 後期末試験：25%			
指標と評価割合		評価方法			
		試験	レポート 小テスト	発表 質疑応答 体験実践等	※その他
総合評価割合		100			
総合 力 指 標	知識・体験を取り込む力				
	思考・批判・創造する力				
	発表や伝達する力				
	学習に取り組む姿勢や努力				
※「その他」の評価 (5点以内)					
課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法		質問やフィードバックなどについては、レスポンスシートによって対応します。			